平成２３年度　福井型コミュニティ・スクール推進事業実施報告書

地域に活かされ、地域に育てられる「おしまっ子」

坂井市立雄島小学校

１　取り組みの概要

（１）地域や家庭と学校の連携実績

項　　目	回　数
地域･学校協議会	３ 回
中学校区を単位とした協議会	０ 回
地域及び家庭への学校公開	１０回（のべ）１１日

（２）地域人材の活用（のべ人数）

講師･ゲストティーチャー
４６人
授業ボランティア（含：低ボラ）
１２人
登下校支援ボランティア
２０人
その他（　　）
人

（３）特色ある活動

テーマ「ふるさと教育」

豊かな自然に囲まれた雄島小学校の周辺は「陣ヶ岡丘陵」と呼ばれ、絶滅危惧種をはじめ貴重な生物が数多く生息している。安島地区にある「エロモンのふけ」（エロモンさんの池という意味）でも、アメリカザリガニのような外来種からヒメゲンゴロウのような貴重な在来生物を守ろうと、地区住民あげて必死の努力が続けられてきた。そんな地区住民や地域・学校協議会の方からは、以前より「エロモンのふけ」での環境学習を勧められていた。

今年度、新学習指導要領がスタートし、初めて４年生が「エロモンのふけ」とすぐ近くの海浜公園内にある「ひょうたん池」を訪れることにした。２つの池は対照的で、自然のままの生態系が残っている池と、反対に、外来種によって生態系がくずれてしまった池である。学習会では、福井県安全環境部自然環境課や坂井市生活環境部、東京大学教授、陣ヶ岡丘陵地域生物多様性保全協議会、松島水族館など、たくさんの方が指導くださることになった。

まず、東京大学の教授から「エロモンのふけ」に生息している生き物とその保全活動について学習した。

６月には、自然学習会・「陣ヶ岡丘陵を探検しよう」というテーマで実際に現地を訪れ、「エロモンのふけ」と「ひょうたん池」の生態調査を行った。２つの池に棲む生き物の種類や数を記録し、その調査結果を種類や数で色分けし、比較してみた。そして分かったことを児童一人一人が絵や図やグラフなどを使って新聞にまとめた。「在来種と豊かな自然を守るためには、安易に外国からの動植物を入れてはいけない」という児童のコメントに、保全活動を進める地元の人や指導してくださった講師の先生方もいたく感心し、未来に生きる子どもたちはもちろんのこと、子どもを通して大人にも自然界の生態を守る意義が伝わることを期待する声が聞かれた。

自然豊かな三国に住んでいる子どもたちは、たくさんの生き物が身近に棲み、その命はあたり前のように続くと思いがちだが、この自然学習を通して、生態系のしくみとその保全活動の大切さ、難しさに気づくことができたようである。今後も継続して取り組んでいきたい。

成果と課題

地域を知りその特長を生かすためには、人々の思いを積極的にカリキュラムに取り入れることが大切である。今回の自然学習会は、スクールプランにある「体験学習を通した生きた学力」を育成するよい機会となり、コミュニティ・スクールの大きな成果と考える。

またそのほかにも、今秋には通学路にある電柱の撤去・移設工事が完了し、以前より地域・学校協議会で話し合われてきた「安全な登下校」が前進したことも大きな成果である。